

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人 栄寿会		
事業所名	グループホーム ひかる		
所在地	徳島県徳島市名東町1丁目91		
自己評価作成日	平成21年8月18日	評価結果市町村受理日	平成21年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制をとっている。すぐそばに協力医療機関があり、緊急時には24時間対応が可能となっている。防災設備についても、自動火災感知設備・スプリンクラー設備・消火用散水栓・119番通報装置を設置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは併設された施設・事業所と協力して、災害対策や職員研修、医療連携などを徹底し、利用者や家族に対して安心を提供している。運営推進会議は2か月に1回開催し、現状や課題について参加者間で意見交換を行い、その内容をケアに反映している。利用者と職員は穏やかで親しみのある関係を築き、明るく家庭的な雰囲気づくりが徹底されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日頃から理念を共有し、入居者の方の介護等に活かせるように努めている。	管理者と職員は事業所独自の理念を大切にして共有し、常に話し合っ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の児童や、保育園の園児たちが、来訪をしてくれたり、運動会に招待されたりしている。	職員は、利用者が地域とのつながりを保つことを大切に考え、保育園や小学校、近隣住民との交流に積極的に取り組んでいる。	事業所の持つ機能を活かし、近隣住民を巻き込んだ研修会を開催するなど、事業所から地域へ向けて発信できることを企画し、地域で必要とされる役割を担っていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席をされた町内会長さんや老人クラブの会長さんに、協力ができる事をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスや現状の報告、また、入居者の活動状況の報告を行い、意見の交換等を行なっている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、事業所から報告したり参加者から意見が出されるなど、双方向的な内容となっている。評価結果についても話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換等を行なっている。	提出書類を市の担当者に直接届けるようにし、顔見知りの関係を築いている。また、その際に事業所の実情を伝えたり、課題を相談したりして協力を得ている。地域包括支援センターとの相互訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜9時から翌朝6時までとしている。日中は開錠しており、自由に出入りが出来るようになっている。	代表者及び全職員が身体拘束の弊害を認識し、玄関には鍵をかけず、身体拘束は行っていない。職員の工夫と見守りで、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。また、カンファレンス時やミーティング等で話し合いをし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受け、必要な時には家族への支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たって、本人や家族の方に説明を行なっている。また、いつでも解約できることを併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また、管理者や職員にも気軽に言ってもらえるようにしている。意見・要望等があれば、対策を検討し対応している。	日々のケアの中で利用者の思いや希望を把握したり、家族の来訪時に意見を出してもらえるよう伝えたりしている。また、意見箱の設置や郵便物に要望を書いてもらうための葉書を同封するなど工夫している。出された要望等に対しては検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取りあげてくれている。	ミーティングやカンファレンスの際には、職員が自由に意見を出し合い話し合っている。代表者や管理者とは、日頃からコミュニケーションが密に図れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は、昇給時に考慮されている。また、労働時間は週40時間を遵守している。親睦会等には、費用を一部負担してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修があり、特に外部研修については、受講料・交通費等の事業所負担がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等により、交流の機会があり、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、面接をし困っていることや要望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、要望等をお聞きし、また、利用開始後も不安に思っていること等をお聞きして、介護に活かすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や、性格等を教えてもらっている。また、他の施設から移られた時には、医療情報や生活情報を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が利用している浴室やトイレも、職員と一緒に利用し、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時、ホームでの生活状況を知ってもらい、また、家族の方の要望等をお聞きし、家族と共に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が、気軽に来訪してくれている。	入居期間が長くなっても、できる限り継続的な交流ができるよう努力している。知人の来訪や家族の協力による一時帰宅を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、職員が声かけをしたり、ドライブやカラオケ等をして皆が楽しめる場をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の病院や施設に移られた方には、時折面会に行き様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等から、希望等を聞き把握している。	職員は常に利用者と会話を交わし、本人の思いや希望を把握している。また家族の面会時には、要望や利用者の情報を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時に、状況等を話し合っ把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要な事項は、申し送りや個別の記録、連絡ノートに記載し、把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを3か月毎に行い、本人や家族の方から要望や希望を聞き、介護計画に取り入れている。	カンファレンスの前には利用者の意向を聞き、家族とも電話等で話し合っ、介護計画に反映させている。介護計画は職員間で意見交換やモニタリングを行い、利用者の現状に即したものとなるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要な事は連絡ノートに記載し、情報は職員間で共有している。また、カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理髪店の方が、月に1回来訪して散髪をしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとっているため、入居者の方は全員、協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。	利用者や家族と話し合い、納得が得られたかかりつけ医との関係を築いている。また週1回の訪問診療や必要に応じた訪問歯科診療なども支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師がおり、いつでも気軽に相談ができる。変化が見られる時は、看護師に相談し、医師からの指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に、病状等の説明をして、急変時や終末期の要望を聞いている。	入居時に利用者や家族と話し合い、同意書を作成し、関係者全員で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また、内部研修でも学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法、蘇生法や地震時の対応の仕方等の勉強をしている。	防災設備や備蓄を整備している。また利用者と職員が参加する夜間想定防災訓練を年に2回、実施している。運営推進会議の参加者や近隣住民に対して、災害時の協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけない言葉使いや介護を行なっている。	職員は利用者一人ひとりの個性をよく理解し、それぞれにあわせた穏やかな対応をしている。	利用者同士、本人と職員の親しみが増す中で、気付かないうちに誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応が行われていないかを検討する機会を設けることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かりやすく説明をし、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごしていたれている。行事等がある時は、職員のペースで進める時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時は、さり気なく声かけをして、居室で着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に、好きな食べ物を聞き、献立づくりに取り入れている。また、食材の下ごしらえや、配膳・下膳を手伝ってくれている。	旬の食材や珍しい品を取り入れ、利用者が喜ぶ食事となるよう工夫している。食事は職員も一緒に会話を楽しみながら食卓を囲んでいる。また利用者は、配膳や後片づけを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週作成した献立表を、管理者や併設の施設の管理栄養士にチェックしてもらっている。水分はペットボトルに白湯を入れ、居室でいつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをし、洗面所へ誘導して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しているが、失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけない声かけをし、更衣介助をしている。また、トイレに間に合わない方には、ポータブルトイレを居室に設置している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行うなどして自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行なわれている棒体操に参加して適度な運動をしていただいたり、手作りのヨーグルトを食べてもらったりして便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回(月・水・金)となっているがいつでも入れる体制をとっている。入居者の希望で、昼間に入浴をしている方が多い。	入浴は利用者の希望に合わせて支援している。入浴を嫌がる利用者には、職員が交代で声をかけ勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。昼間眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間巡回時は、大きな音を出さないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園に野菜や花を植えて、草抜きや水やりをしてもらっている。また、野菜類は収穫を楽しみ、食卓に出して食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花に応じた花見に行き、外食を楽しんだりしている。また、家族の協力外出され、食事や買い物を楽しまれている。	利用者の希望に合わせた外出支援を積極的に行っている。季節ごとの花見には恒例で出かけたがり、市内の景色の良いところや珍しいところを見つけてドライブに出かけたりしている。ホームの庭先で食事をしたり、外食なども取り入れて、利用者の楽しみをつくらせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる 1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方とも相談し、能力のある方には、小遣い銭程度の小額を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に、電話をかけてあげたり、手紙を出してあげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり、癒されている。また、ホールや食卓には季節の野菜や植物を飾っている。	家具の配置や飾り付けは、生活感のある家庭的なものになっている。大きな窓から木々の緑が眺められるホールでは、利用者が集まって楽しそうに談話している。また職員がカウンターを手作りしたり、食卓の角を丸くして利用者がけがをしないようにするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居者の方がそれぞれ気に入った場所で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品等は、普段から使い慣れた物を持ってきていただいている。	居室には利用者の意向にあわせて馴染みの家具を配置したり、花を飾ったりしている。またベッドで過ごしにくい方には畳を敷くなど居心地よい居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には手摺を設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式の便器となっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し実践につながるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の美容院へ行かれて、カットやパーマされている方もある。又、近くの小学校の児童の来訪や、保育園の運動会に招待されたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長さんや、老人会の会長さんに、いつでもお役に立てることをお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域代表の方にサービスの提供状況や、入居者の活動報告等を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には、毎月の実績報告書を提出した時、運営推進会議に出席された地域包括支援センターの職員の方と話し合いをしたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症高度の方が、無断離棟することがあり、2箇所の入出りのうち、1箇所だけ施錠をしている。居室は、施錠できるようになっているが、施錠はしていない。玄関は、夜9時から翌朝6時までは、施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。また、ミーティング等で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、必要な時には対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分に説明をし、理解をしてもらっている。解約も制限が無いことを併せて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時に、要望や意見を聞いたり、ご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞いてくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は、週40時間を遵守している。また、親睦会等の費用も助成してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修があり、外部研修への参加についても積極的に支援してくれている。また、費用の事業所負担がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等により、他の事業所の方との交流で、情報交換等を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、面接等をし希望や困っていることを聞いている。また、機会あるごとに、本人に希望を聞き、介護面に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、面接等をし希望や困っていることを聞いている。また、機会あるごとに、本人に希望を聞き、介護面に活かしている。本人や家族の方に、困っていることや要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設から移ってこられた方は、医療情報や介護情報を参考にし、また、家族の方からも要望等を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活から、行事・レクリエーション等を共にしている。また、料理の仕方や、昔からの風習等を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望や意見を聞いたり、ご意見箱を設置している。現在の状況を説明したり、若い時の生活状況を教えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの友人が、気軽に訪ねて来られ、居室やホールで話をされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者の方同士が、それぞれに訪室しあったり、ホールでテレビを見ながら、話をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設に行かれた方の面会に行ったり、会った時に話を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から、希望等を聞き、把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス等を通じて、一人ひとりの状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録や、申し送りノートにより現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望等を聞き、カンファレンス開催時に話し合い、介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録や申し送りノートに記載し、情報を共有している。介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院に行かれる方は、お店の方が送迎をしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方は、協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。他科受診は、家族の方や本人の希望を聞き入れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師がおり、気軽に相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と、情報交換や相談ができる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状説明書・同意書を家族の方に説明し、要望や希望を聞いている。協力医療機関や他の医療機関への入院等も支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、内部研修でも学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年2回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の、誇りやプライバシーを傷つけない、声かけや介護をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優しくゆっくりとした声かけで、理解できるまで話しかけて、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや行事等により、職員の都合で進める時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入った服装をしてもらっている。また、月に1回訪問理容を利用したり、近所の美容院へ行かれる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は、同じ献立の食事を一緒にテーブルで、話をしながら食べている。また、引膳やテーブル拭きを手伝ってくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間の献立をつくり、併設施設の管理栄養士にチェックをして貰っている。また、嚥下の悪い人には、全粥・刻み食を提供し、誤嚥の予防をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し、口腔ケアを行なっている。自分で出来ない方は、義歯の洗浄介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には、牛乳等を飲用してもらっている。また、2～3日排便が無い時は、センナ茶を飲用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方は、職員が代わる代わる声かけをしたり、入浴をしそうなタイミングを見計らっている。今は、入居者の希望で昼間入浴をしている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪い時は、居室で休んでもらっている。また、夜間は大きな音を出さないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬のリストがあり、効能・用量、副作用の説明書がある。自分で服薬できない方は、服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を活かした役割をもって日常生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や、市内ドライブに出かけたりしている。また、家族の方をお願いをして、外出・外泊ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる 2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の不安を解消するために、家族と相談して小遣いを持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から申し出のある時は、家族や知人に、電話をかけてあげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事や外出した時の写真を掲示している。また、テーブルには季節の花を飾ったりしている。空調はその時の外気温により、調整をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを利用して、それぞれが気に入った場所でテレビを見たり、新聞を読んだり、会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを使われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレは、洋式便器と手摺を設置し、立ち上がりやすいようにしている。また、廊下・浴室にも手摺を設置し、安全面にも配慮をしている。		